

実習計画

1. 実習目標

[授業の目的・ねらい]

精神保健福祉実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

精神保健福祉実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき、精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。

実習指導者及び巡回指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理自己に求められる課題等、総合的に対応できる能力を習得する。

精神保健福祉実習では、以下の事項について、実習指導者と担当教員による連携のもと個別指導や集団指導を行う。

①利用者等との基本的なコミュニケーション技術の習得、②利用者理解に基づくケースレポートの作成および支援とその評価、③チームアプローチの実際や精神保健福祉士の倫理の理解および組織の一員としての役割と責任の理解、④配属先の地域社会との関係の理解およびネットワークングをはじめとする地域社会への働きかけ等の理解。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

①個別支援にともなう情報収集の仕方や面接技法などを実践的に習得し、ケースレポートを作成することができる、②カンファレンスなどのミーティングや多職種会議などの体験から、精神保健福祉士の立場を理解し、説明することができる、③精神保健医療福祉における多職種理解や連携等について、理解し説明することができる、④精神保健福祉士として必要な倫理・知識・技術を習得し、自己の振り返りができる。

2. 実習指導者及び実習施設との連携

- ① 実習打ち合わせ会を開催し、実習指導者に対して本学の実習目標等について伝え、あわせて実習施設の実態をふまえた、実習のあり方について協議する。その際、本学作成の「実習の手引き」を利用し、学生・教員・実習指導者の三者共通の認識のもと、実習がすすめられるように努める。
- ② 実習打ち合わせ会において学生と実習指導者が意見交換を行う機会を設け、各学生の実習計画書作成上の課題や留意点について実習指導教員とともに協議する。
- ③ 実習担当教員による巡回指導において実習指導者と実習の進捗状況等について情報共有し、実習生が実習を滞りなくすすめられるように努める。
- ④ 実習後に実習報告会を実施する。実習生は実習体験を振り返り、実習指導者等から助言を得ることによって、自身の体験を省察することができる。また、実習報告会は実習指導者が他施設での実習内容について知る機会でもあり、実習指導者は得られた情報を次年度以降の実習に役立てることができる。

3. 精神保健福祉実習の展開

○精神保健福祉実習

精神保健福祉実習(施設) 一期間と目的一
実習期間:夏期集中・8月に10日間
【実習目的】 障害福祉サービス事業所(施設)において利用者理解を深め、援助関係の形成、権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価、実習先と地域社会との関係、施設運営管理等について実習計画書に基づき理解する。
【実習内容】 1.利用者理解と援助技術の習得 2.利用者との援助関係の形成 3.実習施設が地域のなかで担う役割についての理解、地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 4.施設運営管理についての理解
精神保健福祉実習(精神科病院) 一期間と目的一
実習期間:夏期集中・8月下旬～9月に17日間
【実習目的】 精神科病院の概要及び実習先における精神保健福祉士の機能と役割、患者及び家族等との基本的なコミュニケーション技術、多職種連携及び多機関連携の実際について実習計画書に基づいて理解する。
【実習内容】 1.精神科病院の地域における役割の理解、精神保健福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解 2.患者やその家族、他職種・他機関職員との基本的なコミュニケーション技術の習得 3.多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際の理解